

1. 事業の位置付け

事務事業名	囲基文化振興事業		
事業担当	市民部 文化・交流課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等	文化芸術振興基本法		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託：○3セク・財団 企業 NPO その他】【協働：まちづくり振興財団】		
目的・目標		事業の概要	
囲基に関連した各種イベントを開催することにより、囲基文化の向上と振興が図られています。		囲基文化の向上と振興のため、各種イベントなどを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	囲基普及事業数				単位	事業
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	23	25	25	21		
	実績	22	20	25	19		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	囲基普及事業参加者数				単位	人
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	9600	9700	9800	8800		
	実績	8714	9801	8503	10626		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民ニーズや「文化芸術振興基本法」による規定、文化振興の安定性、継続性の確保の観点から必要性は高い。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	事業展開の改善を図りながら、有効性を高めていくことが必要です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	本市の貴重な文化資源である囲基文化の普及、振興の観点から目的、対象、内容ともに妥当性は高い。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	事業経費は、更なるコスト削減に取り組む必要があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		各種イベントなどの実施	各種イベントなどの実施	各種イベントなどの実施	各種イベント等の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	8,176
	一般財源	11,890	15,378	14,422	0
事業費 (A)		11,890	15,378	14,422	8,176
執行率 (%)		96.95	89.08	74.87	86.06
内訳	職員 (人)	0.55	0.55	0.50	0.40
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.05	0.15
人件費 (B)		4,616	4,616	4,351	3,815
フルコスト (A+B)		16,506	19,994	18,773	11,991

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	②:若干遅れている 「囲碁サミット」の開催に伴い、事業数を減らして対応したため。	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	事業数は昨年より1事業少なかったが、女流棋聖戦の誘致、各種囲碁大会、女性・子どもを対象とした囲碁教室等、各種イベントの内容を充実することにより、囲碁文化の向上と振興に寄与した。	全国初となる「囲碁サミット」を開催し「囲碁のまちひらつか」を全国に発信できました。また、棋聖戦、女流棋聖戦の誘致、各種囲碁大会、女性・子どもを対象とした囲碁教室等、各種イベントの内容を充実することにより、囲碁文化の向上と振興に寄与できました。	湘南ひらつか囲碁まつりを開催するとともに第2回囲碁サミット(尾道市)に参加し「囲碁のまちひらつか」を全国に発信できました。また、女流棋聖戦の誘致、各種囲碁大会、女性・子どもを対象とした囲碁教室等、各種イベントの内容を充実することにより、囲碁文化の向上と振興に寄与できました。	湘南ひらつか囲碁まつりを開催するとともに第3回囲碁サミット(大町市)に参加し「囲碁のまちひらつか」を全国に発信できました。また、女流棋聖戦の誘致、各種囲碁大会、女性・子どもを対象とした囲碁教室等、各種イベントの内容を充実することにより、囲碁文化の向上と振興に寄与できました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組む。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組みます。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組みます。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組みます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	出前図書館事業		
事業担当	社会教育部 中央図書館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	当面3～5歳児(将来的には市民全体に拡大)	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
子ども達が図書に触れ読書の楽しみを知ることにより、創造力や思いやりを養い健やかに成長しています。また、入所施設の高齢者が、読書の時間を持つことにより、生きがいのある時を過ごします。		子ども達が読書を楽しみ健やかに成長するため、移動図書館車で児童施設などを訪問し、図書の貸出し、おはなし会などを実施します。また、入所施設の高齢者に対して、大活字本の貸出を実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	巡回回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	72	84	84	84		
	実績	66	72	69	72		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	貸出点数				単位	点
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	3600	4400	4800	4800		
	実績	4308	4795	4284	4437		
成果指標②	指標名	訪問施設数(幼稚園、保育園等)				単位	か所
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	12	18	15	20		
	実績	16	10	10	10		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	図書館に来館しづらい方や子どもたちが図書にふれる機会が増えることから、訪問施設からのニーズはあります。 継続して実施することにより、訪問施設も増え、図書館に来館しづらい方や子どもたちが図書にふれる機会も増えます。 実績のある施設以外にも再度周知し、訪問箇所を増やすことで更に妥当性が高くなります。 出前図書館利用者が手にした図書は、施設で回収し、期限になると図書館で引き取りにしているが、施設職員の負担が大きくなっています。

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		児童施設などの訪問、 図書などの貸出し	児童施設などの訪問、 図書などの貸出し	児童施設などの訪問、 図書などの貸出し	児童施設等の訪問、図 書等の貸出し
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	804	700	619	602
事業費 (A)		804	700	619	602
執行率 (%)		114.86	100.00	88.43	99.97
内訳	職員 (人)	1.15	1.15	1.20	0.55
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.35
人件費 (B)		9,650	9,650	10,028	5,736
フルコスト (A+B)		10,454	10,350	10,647	6,338

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	②:若干遅れている 施設担当者の負担が多いため継続して実施する施設が減少しました。	②:若干遅れている 施設担当者の負担が多いため継続して実施する施設が減少しました。	②:若干遅れている 受入施設担当者の負担が多いため継続して実施する施設が減少した。
	主な取組と成果	実施に当たり市内幼稚園・保育所・入所施設・ろう学校に周知することにより希望を募り、市内幼稚園・保育所を中心に16施設からの希望を受け実施したことにより、子どもたちが図書に触れ合う機会を増やすことができました。	実施に当たり市内幼稚園・保育所・入所施設・ろう学校に周知することにより希望を募り、市内幼稚園・保育所を中心に10施設からの希望を受け実施したことにより、子ども達が図書に触れ合う機会を増やすことができました。	実施に当たり市内幼稚園・保育所・入所施設・ろう学校に周知することにより希望を募り、市内幼稚園・保育所を中心に10施設からの希望を受け実施したことにより、子ども達が図書に触れ合う機会を増やすことができました。	実施に当たり市内幼稚園・保育所・入所施設・ろう学校に周知することにより希望を募り、市内幼稚園・保育所を中心に10施設からの希望を受け実施したことにより、子ども達が図書に触れ合う機会を増やすことができました。また、平塚民間保育園連盟の定例会にて周知を図ったが、移動図書館車での訪問が難しい施設だったので、訪問施設数増が出来ませんでした。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成22年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成23年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		訪問施設を広げることで巡回回数も増え、更に貸出点数も増える。今後は、固定した訪問施設以外に枠を広げられるように周知徹底する必要があります。	訪問施設を広げることで巡回回数も増え、更に貸出点数も増えます。今後は、固定した訪問施設以外に枠を広げられるように周知徹底する必要があります。	訪問施設を広げることで巡回回数も増え、更に貸出点数も増えます。今後は、固定した訪問施設以外に枠を広げられるように各施設を個別に訪問しPRを行うなど周知する必要があります。また、障がい者サービスと統合して事業の拡大を図っていきます。	訪問施設を広げることで巡回回数も増え、更に貸出点数も増えます。今後は、固定した訪問施設以外に枠を広げられるように各施設を個別に訪問しPRを行うなど周知する必要があります。また、障がい者サービス事業の拡大を図っていきます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	ブックスタート事業		
事業担当	社会教育部 中央図書館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	平塚市内在住の1歳未満の乳児・保護者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: ブックスタートボランティア】		
目的・目標		事業の概要	
絵本を通して豊かな子どもの心を育て、親子の絆が養われています。		絵本を通して豊かな子どもの心を育て、親子の絆を養うため、地域のすべての赤ちゃんと保護者に、「赤ちゃんと絵本を楽しむ時間の大切さ」を伝えながら、絵本を直接手渡します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	ブックスタート実施回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	38	42	43	44		
	実績	42	43	43	38		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	ブックスタートに参加した乳児の割合				単位	%
	説明・算定式	参加した乳児数÷乳児総数×100					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	50	50	50	55		
	実績	44.6	47.3	49.3	46.8		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	実施により「赤ちゃんと絵本を楽しむ時間の大切さ」を体験していただき、豊かな心を育てられることから、必要性は高いです。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	常に対象者が発生してくるものなので、性質上継続して実施することで、着実に参加者も増えています。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	対象については、1歳未満の乳児とその保護者を対象とするが、この時期だからこそ乳児、保護者にとっても普及啓発を図る必要があります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	ボランティアを募集し協働で実施しています。今後、ボランティアを組織化し、活動内容・役割分担などの一層の連携を目指します。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		ブックスタートの開催、 赤ちゃん文庫の充実	ブックスタートの開催、 赤ちゃん文庫の充実	ブックスタートの開催、 赤ちゃん文庫の充実	ブックスタートの開催、 赤ちゃん文庫の充実
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	3,279	3,045	2,578	3,047
事業費 (A)		3,279	3,045	2,578	3,047
執行率 (%)		75.78	70.37	59.58	96.18
内訳	職員 (人)	1.75	1.75	1.25	1.14
	再任用 (人)	0.05	0.05	0.05	0.15
人件費 (B)		14,856	14,856	10,618	9,927
フルコスト (A+B)		18,135	17,901	13,196	12,974

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	②: 若干遅れている 記録的な猛暑による参加者減及び東日本大震災後の図書館閉館などによる実施回数減
	主な取組と成果	ブックスタートに参加した乳児の割合は、目標値に達しなかったが、予定どおり開催するとともに、個別渡しも15組と着実に参加者が増えつつあり、成果があがっている。	ブックスタートに参加した乳児の割合は、目標値に達しませんでした。個別配布の案内書の内容をわかりやすくするとともに、事前申し込み不要の日を決めて実施をしました。個別渡しも12組と着実に参加者が増えつつあり、成果はあがっています。	ブックスタートに参加した乳児の割合は、目標値に達しませんでした。個別配布の案内書の内容をわかりやすくするとともに、事前申し込み不要の日を決めて実施をしました。個別渡しも18組と着実に参加者が増えつつあり、成果はあがっています。ボランティアの組織化はまだ出来ていませんが、ボランティアの積極的な意見を反映して事業内容の改善が図られました。	ブックスタートに参加した乳児の割合は、目標値に達しませんでした。個別配布の案内書の内容をわかりやすくしたことで、個別渡しの参加者も19組と着実に増えつつあります。参加率向上のために、土日の開催や事前申し込み不要の日を決めて実施するとともに、ポリオの会場でチラシ配布を行い、その効果もみられました。ボランティアの組織化はまだ出来ていませんが、ボランティアの積極的な意見を反映して事業内容の改善が図られました。
検証結果		B: おおむね成果があがった 平成21年度への展開	A: 成果があがった 平成22年度への展開	A: 成果があがった 平成23年度への展開	B: おおむね成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		ボランティアと協働して組織化・分担などについて一層の連携を深めます。	ボランティアと協働して組織化・分担などについて一層の連携を深めます。	ボランティアと協働して組織化・分担などについて一層の連携を深めます。	ボランティアと協働して組織化・分担などについて一層の連携を深めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	博物館教育普及活動推進事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
地域の埋もれた情報を掘り起こし、発信することにより、市民の知的満足が得られています。		市民の生涯学習に役立てるため、体験学習、各種の講座、野外教育活動などを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	行事開催回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	340	340	340	340		
	実績	319	320	372	342		
活動指標②	指標名	テキスト作成数				単位	部
	説明・算定式	教育活動用テキスト作成ページ数					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	150	150	150	150		
	実績	171	170	240	253		
成果指標①	指標名	博物館行事参加者満足度				単位	点
	説明・算定式	5段階評価のアンケート					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	4	4	4	4		
	実績	4	4	4	4		
成果指標②	指標名	教育活動参加者数				単位	人
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	6500	6500	6500	6500		
	実績	6457	6066	7612	6078		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	臨時休館があつたにも関わらず各種行事の参加者数の合計は平年並みを維持し、堅い市民ニーズが読み取れます。学習機会の提供は、公平性への配慮、稀少性の尊重なども重要で、市場原理になじまない点があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	教育普及活動推進事業を通して市民と継続的に行なった聞き取り調査によって、空襲被害の状況が徐々に明らかになり、今年度の特別展の基礎資料となりました。市民の目線での戦災記録が、来館者の支持を得ました。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	各種の講座、観察会等で知識や技術を得た市民が学芸員を助けており、受益者が活動に貢献する仕組みができています。活動の専門性、魅力度の担保のため、学芸員が分野ごとに必要です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	他課との関連業務等で学芸員の事務量は増大しているものの、それを教育普及活動に参加し知識技術を得た市民がサポートしています。業務プロセスに市民参加が活用されています。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		体験学習、各種講座など教育普及活動の実施	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	567	842	353	351
	一般財源	31,565	24,837	22,382	20,607
事業費 (A)		32,132	25,679	22,735	20,958
執行率 (%)		99.59	79.59	70.46	95.21
内訳	職員 (人)	3.85	3.85	3.85	3.30
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		32,306	32,306	32,171	27,255
フルコスト (A+B)		64,438	57,985	54,906	48,213

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
	主な取組と成果	教育普及活動に重きをおいた新しい地域博物館を目指して、特別展示室、講堂、科学教室、プラネタリウム室等を活用して事業を展開するとともに、野外教育活動、広報、出版活動等の充実を図った。プラネタリウムの投影は、市民向けに隔月にテーマを変え、幼児投影、学習投影を市内外の保育所・幼稚園、小学校の利用にも応じて開催した。「銀河鉄道の夜」の上映が好評を博した。演劇公演2回、ライブコンサートを開催し、好評だった。	教育普及活動に重きをおいた新しい地域博物館を目指して、特別展示室、講堂、科学教室、プラネタリウム室等を活用して事業を展開するとともに、野外教育活動、広報、出版活動等の充実を図りました。プラネタリウムの投影は、市民向けに隔月にテーマを変え、幼児投影、学習投影を市内外の保育所・幼稚園、小学校の利用にも応じて開催しました。演劇公演2回、ライブコンサートを開催し、好評でした。	教育普及活動に重きをおいた新しい地域博物館として各種の行事を実施しました。野外での観察のほか、プラネタリウム、展示室等館内の設備を有効に活用しました。「世界天文年」に呼応した行事を実施し、多数の利用者がありました。プラネタリウムの投影は他施設より短期でテーマを変え、団体向けには年齢・利用目的に応じた内容で実施しました。共通テーマで人文自然両分野横断の連続講座を催したり、祭囃子に着目したイベント実施など、新しいニーズの開発も試み、成果がありました。	各種講座、野外での観察、プラネタリウム等の教育活動を基礎に、古代生活実験や古文書の補強等、独自の市民協働スタイルを保存や研究領域にも適用し、地域博物館の目標に対し十分な成果がありました。
検証結果		A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		学芸員の世代交代がある際に、地域情報の受け渡しが円滑にできるシステムの構築を考え、そのなかで効率的に教育普及活動を推進する必要があります。	調査活動での市民との協働を進めます。さらに展示、普及活動などでの協働も深め、博物館と市民との情報共有に努めます。	退職等により学芸員の交代が発生した際に、資料およびその情報、事業実施のノウハウ等の引継が体系的に行われるよう、体制整備が必要です。	学芸員の世代交代期に入っています。資料およびその情報、事業実施のノウハウ等の引継を途切れることなく円滑に行ない、協力市民の信頼を維持する必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	プラネタリウム設備改修事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	幼児・児童生徒、一般市民	事業期間	2010年～2010年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
幼児から熟年層にいたる多くの市民が、プラネタリウムでの美しい星空の観察や宇宙の学習により理科好きや最先端科学に強くなっています。		プラネタリウムでの美しい星空の観察や宇宙の学習を行うため、購入後21年が経過し老朽化したプラネタリウム施設を最新の設備に改修します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績					
活動指標②	指標名					単位
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績					
成果指標①	指標名	プラネタリウム設備改修進捗率				単位 %
	説明・算定式	(H22年度から設定)				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績	— —	— —	— —	100 80	
成果指標②	指標名					単位
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	プラネタリウムは、市内はもとより周辺地域における児童生徒の理科学習、幼児の情操教育、一般市民の宇宙科学への理解など、広い範囲のニーズにこたえてきています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 低
有効性	<ul style="list-style-type: none"> □ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	設備改修により映像の質、観覧環境の双方が向上し、観覧者の満足度が高まります。またプラネタリウム事業の継続により、市民に科学的思考の習慣を醸成できます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 低 	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 ■ 受益者負担、補助額 ■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	プラネタリウムは科学的な機能に加えて美術館とのコラボレーション事業など文化芸術面の活用実績もあり、多くの市民の要求に答えることができます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 中 ○ 低 	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 □ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	従来もコスト面では近隣市の同等の施設と比べ、効率的な運用をしていますが、投影機更新によりさらに充実した機能で事業運営が可能となります。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 中 ○ 低 	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		—	—	—	機器改修、スクリーン補修、座席交換、カーペット、壁クロス張替え
財源内訳	国庫支出金	—	—	—	0
	県支出金	—	—	—	0
	起債	—	—	—	0
	その他 特財	—	—	—	0
	一般財源	—	—	—	15,638
事業費 (A)		—	—	—	15,638
執行率 (%)		—	—	—	53.48
内訳	職員 (人)	—	—	—	0.35
	再任用 (人)	—	—	—	0.00
人件費 (B)		—	—	—	2,891
フルコスト (A+B)		—	—	—	18,529

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	—	—	—	②:若干遅れている スクリーン改修中にドーム構造部より石綿が発見され、工程を中断し除去作業を実施したため
	主な取組と成果	—	—	—	平成22年11月まで従来の投影機で投影を実施した後、更新の実作業に入りましたが、スクリーン改修中に、ドーム構造部に石綿の使用が発見されました。利用者の安全を優先するため、急きょ石綿除去を実施しました。その後改修事業を再開し、スクリーン改修は完了、座席は納品済み、投影機の工場内生産は終わっているものの、これらの据付調整作業を残しました。
検証結果		—	—	—	B : おおむね成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		—	—	幼児から熟年層まで、平塚市民の特徴である科学技術への興味関心の高さに応えていくために、天文・宇宙科学を中核とした科学教育プログラムを充実する設備の維持、人材育成が重要と考えます。	座席の設置、投影機の据付調整、システムのインストール等を行い、当初予定より約2ヶ月遅れて5月に投影再開します。今後は新投影機を活用して事業展開を図ります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	美術教育普及活動推進事業		
事業担当	社会教育部 美術館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	来館者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
小中学生や親子を対象としたワークショップメニューを充実することにより、参加者が増加しています。		美術教育普及活動を推進するため、ワークショップや市民協働のアートフェアを開催します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	ワークショップ等開催回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	20	30	40	40		
	実績	30	46	42	33		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	ワークショップ等参加者数				単位	人
	説明・算定式	短期コース参加者数					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	600	900	1050	1050		
	実績	850	1006	1526	874		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	メニューによっては希望者が殺到し、要望にこたえるため回数を増やしました。 美術教育活動への参加意識が強いため、メニューを充実させ、事業を継続して成果を上げます。
有効性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	美術教育の普及促進と実践をするためにも必要な事業です。 近隣の若手芸術家等を活用した講座を行います。	● 高 ○ 中 ○ 低
妥当性				● 高 ○ 中 ○ 低
効率性				○ 高 ● 中 ○ 低

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		ワークショップの開催	ワークショップの開催	ワークショップ、アートフェアの開催	ワークショップ、アートフェアの開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	839	1,751	1,541	1,533
事業費 (A)		839	1,751	1,541	1,533
執行率 (%)		65.96	109.44	67.00	88.84
内訳	職員 (人)	1.65	1.65	1.25	1.25
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		13,846	13,846	10,445	10,324
フルコスト (A+B)		14,685	15,597	11,986	11,857

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	②:若干遅れている ワークショップの連続講座が増えたため、実参加者数が減少しました。
	主な取組と成果	ワークショップのメニューを増やして30回の講座を行ったが、親子対象の講座はどれも好評であった。	ワークショップのメニューを増やして47回の講座を行い、親子対象の講座はどれも好評でした。ワークショップ参加者の作品を展示・発表するアートフェアを開催し370人以上の観覧がありました。	ワークショップのメニューに展覧会の関連事業を取り入れたりするなど42回の講座を行った結果、親子対象の講座はどれも好評でした。またワークショップ参加者の作品を展示・発表するアートフェアを開催し、180人以上の観覧がありました。	ワークショップのメニューに展覧会の関連事業を取り入れたりするなど33回の講座を行った結果、親子対象の講座はどれも好評でした。なかでも、子育て支援プログラム(ベビーアート)は計4回で196人の参加がありました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		ワークショップメニューの充実と展覧会に関連した事業を実施する。	ワークショップメニューの充実と展覧会に関連した事業を実施します。	ワークショップメニューの充実と展覧会に関連した事業を実施します。	小中学生・教員向けワークショップの充実した事業を実施します。